

脱炭素チャレンジカップ 受賞取組一覧

賞名	受賞団体名	取組
グランプリ	大山乳業農業協同組合	サステナブルな酪農を実現するため バイオ炭を利用したCO2削減
市民部門 優秀賞	逢坂むらづくり協議会	地域に賦存する木質バイオマスによる 再エネ地産地消システム
企業・自治体部門 優秀賞	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	SAFE TOWN DRIVE鳥取 (テレマタグイベント)
ジュニア・キッズ部門 優秀賞	学校法人翔英学園 米子北斗中学校	シネコポータルを活用した 生物多様性学習
学生部門 優秀賞	公立鳥取環境大学 学生EMS委員会	TUES Sustainability Weekの 企画・運営
奨励賞	特定非営利活動法人 希望の星	環境にやさしい太陽熱で とうもろこしのおやつを作ってみよう!
	北栄町環境CFO	環境を自らで感じる大切さ
	京葉ガスエネルギーソリューション株式会社	農業用水を利用した 羽田井マイクロ小水力発電
	株式会社荒谷建設コンサルタント	小水力発電所に設置する除塵機の 水流を利用した無電力化の開発
	南部町・南部だんだんエネルギー脱炭素アクション	南部だんだん いのち・暮らし・ 地域を守る再エネ活用モデル事業
	株式会社小田原工務店	健康省エネな家づくり
	米子市・境港市脱炭素先行地域推進協議会	雑草・ヌカカの発生源を地域資源へ! 脱炭素と共生する農地再生
	琴浦町立東伯中学校サイエンス部	チャリンコ革命
	鳥取市立桜ヶ丘中学校 フード・プロジェクト	食でつなぐ未来 地元食材から始まる SDGsとまちづくり
	鳥取市立桜ヶ丘中学校 クリエイターズ・プロジェクト	人と自然がつながるまち 未来の桜ヶ丘をデザインしよう
	岩美町立岩美北小学校	岩美町 未来を守り隊 ～豊かな海をこれからも～
	鳥取市立若葉台小学校	わかば大池プロジェクト ～豊かなふるさとの自然を未来へ～
	湯梨浜町立泊小学校	泊の海の学習
	公立鳥取環境大学 堀ゼミ	一歩深く学ぶ! 体験型脱炭素教育プログラム
	鳥取県立境港総合技術高等学校	水中ドローンが拓く ブルーカーボン創出の新時代
	鳥取県立米子工業高等学校環境エネルギー科3年課題研究メンバー	里山再生

グランプリ

大山乳業農業協同組合

鳥取県内のすべての酪農家が1組織となり、生産・処理・販売を一貫体制で行う酪農専門農協。「あなたへ贈る『白の一滴、心の一滴』—酪農家の心を食卓へ—」を基本理念とし、牛乳・乳製品などを全国へ届ける。なかでも「白バラ牛乳」は、組合の主力ブランド商品で、60年以上にわたり鳥取県内の学校給食で提供され、県民から「ソウルドリンク」として広く親しまれている。



サステナブルな酪農を実現するため
バイオ炭を利用したCO2削減

バイオ炭を酪農家が堆肥に混合させ堆肥化を促進させ、肥料として土中施用することでCO2を削減するプロジェクトを実施。バイオ炭は、鳥取県内の三光株式会社が近隣の自治体が運営する下水道処理施設の脱水汚泥及び産業廃棄物としての有機汚泥を集荷し、乾燥、炭化したものであるが、粒度の小さいものは廃棄処分されていた。大山乳業が代表者となりバイオ炭を酪農家自らが堆肥に混合させ放牧採草地へ施用することでCO2を削減できるJ-クレジットへのプロジェクト登録が2024年12月に承認された。バイオ炭を年間250t程度使用した場合のCO2吸収量は210(t-CO2)/年と算定された。



バイオ炭を分析すると肥料効果としてリン酸が多く含まれていることが分かった



堆肥にバイオ炭を混合させて堆肥化を促進させて土中施用している

COMMENT このたびは、「脱炭素チャレンジカップ」においてグランプリを受賞させていただき、誠にありがとうございます。本プロジェクトは、バイオ炭を酪農家が堆肥に混合して堆肥化を促進し、その堆肥を肥料として土中施用することで牛の飼料を生産しCO2削減を実現する取り組みです。

逢坂むらづくり協議会

平成21年2月発足。令和4年度に組織改編を実施。6つの部会（公民館運営委員会・公民館部会・総務部会・地域再生部会・協育共生部会・えにし部会）で構成し、約50人のメンバーで活動。

協議会の事業として、従来の協働のまちづくり助成事業は基本的に継続しながら、これに加えて、25年度からは市の里山交流促進モデル事業の補助を活用した事業を行ってきました。



地域に賦存する木質バイオマスによる再エネ地産地消システム

私たちの地域、鳥取市気高町逢坂地区では、高齢化の進行に伴い、空き家などの庭木や竹林などの迷惑木の処理が課題となっていました。太い木は可燃物処理場では受け入れが難しく、放置されたまま危険を生むこともありました。そこで私たちは、「この木を捨てずに、地域の燃料資源に変えよう!」と発想を転換し、地域内の不要な木を伐採・回収し、住民が協力して薪を生産することになりました。地域で伐採した木を、薪として地域で消費することで、化石燃料を使わない“エネルギーの地産地消”を目指しています。



地域の不要木の伐採作業と、薪割作業



生産され、乾燥中の薪。作られた薪は地域住民で活用されます。

COMMENT

新しく仲間を募って薪づくりを始めましたが、メンバーの中には30代の若者も加わり普段の生活では関わりの無い人と共に活動できてよかったと思うことと、地域の方から木の始末に困ってるなど脱炭素と併せて新たな交流が始まりに喜んでいます。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

MS&ADホールディングスの中核損害保険会社として、「先進性」「多様性」「地域密着」を経営方針に掲げて活動をしています。2016年より地方創生戦略室を設置し、地域課題の解決にも積極的に取り組んでいます。「社会・地域との共通価値の創造」を「データやデジタル技術で価値提供を変革」することを目指し、「CSV×DX」を掲げて地域課題の解決を全力でサポートしています。



SAFE TOWN DRIVE 鳥取（テレマタグイベント）

「SAFE TOWN DRIVE 鳥取」は、各自治体・県警などと実施してテレマタグイベントの高度化を目指し実施します。第11次鳥取県交通安全計画の実現を支援するとともに、県民・市民の参加による「エコドライブコンテスト」を実施します。エコドライブコンテストは安全運転を支援すると同時に、自分の運転によるCO₂削減量の「見える化」を行い環境負荷低減の意識向上をサポートします。CO₂削減はガソリン使用量の削減にもつながることを実感していただくことで、より現実的で持続可能な取組として展開します。



安全運転＝エコドライブがCO₂削減やガソリンの削減につながることを実感!!楽しみながら脱炭素を実現



交通安全マップを自治体・警察などへ提供
学校・幼稚園などの通学・通園安全マップとしても活用

COMMENT

本取組は県民・市民参加型の「安心・安全なまちづくり」と「エコドライブの実践」イベントです。10月は約1100名の方にご参加いただきました。2月もイベントを実施しますので、皆さまのご参加をお待ちしております。

学校法人翔英学園 米子北斗中学校

昭和63年に鳥取県内唯一の中高一貫校として開校しました。学習意欲に燃える高い志をもつ生徒に対して中学、高校6年間の一貫教育を行い、社会の各分野において指導的役割を果たし得る優れた人材の育成をはかるという建学の精神のもと、中高一貫教育に取り組んでいます。本取組みは2022年4月に開始し、今年で4年目を迎えます。毎年中学1年生全員が一年間を通してこの生物多様性学習に取り組みます。



シネコポータルを活用した生物多様性学習

本取組は協生農法を行い「生物多様性」を学ぶ日本初教育コンテンツである。協生農法とは多種多様な植物を円形の圃場(シネコポータル)に植栽し、耕さず肥料も使わず農薬も使わない環境で植物を育てる農法である。その結果、有機物が土壌に蓄積されることで土壌炭素貯留につながり、生物多様性を回復することで炭素循環の安定化につながっている。学習ではシネコポータルを長期的な視点で観察し、生態系の成長や変化を感じ、成長する生態系の生物多様性がどのような主体により構成され、相互にどのように関係し、どのように循環しているかなどを学んでいく。この学びを通して脱炭素社会の実現に貢献する心を持った生徒たちを育てていきたい。



シネコポータル作成の様子。直径140cmの円形の圃場に混生密生になるように苗や種を植栽。



2か月後には混生密生の圃場となり植物の多様性に加え、多くの生き物も集まる生物多様性の環境が作られた。

COMMENT

脱炭素チャレンジカップ優秀賞を受賞し感謝します。本校は生物多様性の学習を通じて子どもたちの「世界の解像度」を高める取組を進めており、その教育プログラムが評価されたことを大変うれしく思います。

公立鳥取環境大学 学生EMS委員会

学生EMS委員会は、2002年に学友会内に設立され、大学の環境管理事務局と連携しながら、環境マネジメントシステムISO14001の活動を学生主体で推進する組織です。学友会における環境管理活動を統括し、改善・維持活動の指示や実施状況の報告を行うとともに、学生への環境教育・訓練を担っています。構成員の環境意識向上を図り、持続可能なキャンパスづくりを進めることを目的としています。



TUES Sustainability Weekの企画・運営

本取組みは、公立鳥取環境大学学生EMS委員会の学生が主体となり、大学と地域の脱炭素化を起点に、持続可能な未来について考える1週間のイベントです。イベントでは、脱炭素について多角的に学べる場を提供したり、日常生活の中で環境に配慮した選択を促す場を設けたりして社会全体への意識と行動の変容を後押ししています。学生の創意工夫を活かしながら、教職員や地域と連携して継続的に運営され、大学に脱炭素の文化を根付かせています。また、学生が企画から実行まで担うことで学生の自己成長を実現しています。低コストで実現可能なモデルとして他地域への波及性も高く、若者主導の実践例として新たな行動を生み出しています。



平井知事によるSustainability Talks「鳥取県から新たな時代へ」の様子



企業とコラボして販売した学内で回収した紙バックをアップサイクルしたハンカチタオル

COMMENT

この度は優秀賞を賜り、大変光栄に思います。TUES Sustainability Weekの活動が評価されたことを励みに、今後も後輩へ引き継ぎながら、より良い形で発展させていきたいです。